

スポーツデータサイエンス教室開催報告

横浜市立日吉台小学校の5年生を対象に、ドローンやGPS受信機を活用してスポーツデータを収集し、そのデータを活用してスポーツパフォーマンス向上のための教室を開催しました。

慶應義塾大学蹴球（ラグビー）部にも御協力をいただき、トップアスリートが取り入れている最新のスポーツデータ活用を区内の小学生に体験してもらいました。

日時：平成29年6月26日(月)、29日(木)、7月3日(月)

9時45分～11時15分

場所：慶應義塾大学 下田グラウンド

【当日の様子】

1 時間目 <導入>

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科の神武直彦准教授（当時）から、スポーツデータとは何か、最新のスポーツデータ事情について講義いただきました。次に、慶應義塾大学体育会蹴球部S&Cディレクター太田千尋さんから、本日取得するデータを使うとどのようなことが分かるかなど教えて頂きました。

グラウンドに出る前に、3チームに分かれ、講義を受けたうえで個人の目標とチームの目標を決めました。

目標を模造紙にまとめ、全員が認識できるようにしました。



2 時間目 <ラグビー体験、データ収集>

・ラグビー体験

グラウンドへ行き、準備体操とラグビーに慣れるため、パス練習やルールを学びまし

た。初めて触れるラグビーボールやルールに戸惑いながらも楽しくパス回しをしていました。

・データ収集

その後、GPS受信機やドローンによる撮影を行いながらタッチラグビーの試合。ラグビーのルールがある中で、自分がどれだけ全力でプレーできているかを計測します。

また、ドローンによる撮影により、一人一人の立ち位置や動きが分かります。とても暑い中でしたが、どのチームも全力でプレーしとても盛り上がりました。



3時間目 <振り返り、収集データの確認>

試合後、自分たちのデータ、動画を確認します。

データを見ることで、ダッシュした回数、自分の動いている場所、チームメイトとの連携が視覚的にわかりました。

データを見たうえで、チームごとに個人・チームの反省点を1枚の模造紙にまとめました。「ドローンの映像から、ボールに人が集まりすぎていることが分かった」等、データを通じたパフォーマンス向上を考えることができました。

最後は、先生・生徒・慶應関係者等全員で「ONETEAM!」とラグビー名物の掛け声をかけ終了しました。

